事業のタネシート

活動地域・団体名：株式会社 山都竹琉

事業名称１：山都の空き家活用移住体験

あらすじ

関係人口の増加を図るためにステークホルダーをはじめとした各主体の協力と連携による体験活動や援農の仕組みで山都のファンを育成する。

ストーリー

山都町は、40年以上にわたり有機農業に取り組み、有機農業を行う農業者数が全国№１。棚田や通潤橋などの観光資源にも恵まれている。一方で、人口減少、少子高齢化が進み、担い手が不足している。空き家や廃校が放置され、犯罪に利用される可能性もあるため、役場としても対処したいと考えていた。町と包括協定締結している熊本県立大学の学生と地元の矢部高校の生徒、山都町の各主体が協力と連携することによって、まちの魅力発見の機会を提供し、山都町のファンを増やす。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	魅力が人を集める地域	・空き家と所有者の情報収集 ・権利者との交渉 ・リノベーション費用 ・採算性
②課題	担い手がいない。自然資源を経済活動に反映できていない。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	山都町のファンを増やし、人材育成・新規雇用の創出、農業従事者の働きがい・経済成長を目指す。	
④地域資源	・人口減少 ・空き家、廃校対策	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	・山都町移住体験	
⑥担い手（Who）	山都でしか、大学生、高校生	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	空き家や廃校を活用することで、初期費用を抑え、犯罪の温床となるリスクも防ぐことができる。移住体験してもらうことで、移住者が増え、人口減少を抑制する。	地域に詳しい地域住民。まちの魅力を発信したいという想いを持った人。学生。
⑧事業で生じる成果	交流人口、関係人口の増加	

事業名称２：山都町オリジナル堆肥づくり

あらすじ

放置竹林を整備し、伐採した竹を資源として活用する。鶏糞と混合することで堆肥としての効果を高め、山都町オリジナルの堆肥をつくる。

ストーリー

中山間地である山都町は面積の７割が森林・原野となっている。伐採した竹を資源として活用することで、竹利用の普及と経済の活性化を図る。畜産業者からの鶏糞と竹という未利用資源を組み合わせた堆肥を作るための原料置き場を確保する。町内のコンダクターが指揮を執ることで、山都町内でエネルギーが循環する。有機農業×山都町オリジナル堆肥でブランディングを狙う。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	竹資源を活用する地域	・竹林整備の担い手不足 ・コスト管理 ・堆肥置き場の確保 ・有機資源の好循環のための各種団体コーディネート
②課題	・放置竹林 ・竹林整備の担い手不足	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	伐採した竹と鶏糞を資源として活用することで町のエネルギー循環を図る。	
④地域資源	・竹林 ・有機農業文化	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	・竹堆肥（土壌改良剤：固形、液体）	
⑥担い手（Who）	山都竹琉、竹林整備の会、有機農業者	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	竹資源をマネタイズし、竹粉を肥料（土壌改良剤）と同時に農作物に施肥し農業生産性が向上する。また、竹林整備は竹林の再生を促すため、CO2 の吸収力を高める効果がある。	・化学肥料を使用している農家 ・竹粉利用を推進・普及する農家 ・飼料や敷料への利用する畜産農家 ・有機物資源処理（生ゴミ・し尿）を行う企業や行政
⑧事業で生じる成果	土地劣化の阻止及び逆転の阻止。循環型農業。	

事業名称３：圃場見回りロボモデル地区化プロジェクト		
あらすじ		
まちの特徴である有機農業をスマート農業による高付加価値型農業へ転換し、農業に携わる仲間を増やし、担い手を確保する。		
ストーリー		
山都町は、40年以上にわたり有機農業に取り組み、有機農業№１。一方で人口減少が進み労働者不足、若手の栽培技術不足を課題としている。鳥獣害対策のための圃場見回りロボットを地元出身のIT企業と開発し、実証することで山都町をモデル地区にする。山都町のファンを増やし、人財育成・新規雇用の創出、農業従事者の働きがい向上を図る。		
事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	スマート有機農業による高付加価値型農業の地域	・設備投資にかかる資金 ・スマート農業へ農家の適応 ・スマート農業技術の指導
②課題	鳥獣害、労働者不足、若手の栽培技術不足	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	スマート農業技術活用、農業従事者の負担軽減、反収アップ	
④地域資源	・スマート農業企業 ・有機農業	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	・圃場見回りロボット	
⑥担い手（Who）	エネルギープロダクト、カダブラ、金融機関、山都でしか	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	鳥獣害対策により、農業者の負担が軽減され、反収も増加する。新規参入が容易になり、農業従事者増加につながる。	・設備資金を融資する地域の金融機関 ・農機シェアリングできる事業者、コンダクター
⑧事業で生じる成果	スマート農業の普及。高付加価値型の有機農業。	